

小学生女子バレーボールクラブの監督の言葉かけに関する研究

尾田 菜摘（鳴門教育大学）

1. 目的

本研究の目的は、小学生女子バレーボールクラブの監督の言葉かけと選手の学習意欲との関連を分析し、どのような言葉かけが適切なのか明らかにすることである。

2. 研究方法

小学生時の状況・監督の言葉かけ・バレーボールにおける学習意欲について質問紙調査を行った。

- 1) 対象者：小学生からバレーボールをしていた徳島県中学校1年生女子バレーボール部員
- 2) 期間：平成31年4月中旬～同年5月末
- 3) 回収数（率）：17校63名（28.3%）

3. 結果と考察

1) 監督の言葉かけの傾向

「鼓舞する」「助言する」「切り替える」などの肯定的な言葉かけが多く、「罵倒する」「責める」「脅す」などの否定的な言葉かけは少ない傾向が認められた。また、「褒める」「励ます」「ねぎらう」などの肯定的な言葉かけが良い印象に、「見離す」「罵倒する」「責める」などの否定的な言葉かけが悪い印象に残っていた。

2) バレーボールにおける学習意欲の傾向

学習意欲は「有能感」を除いて全体的に高かった。「有能感」が低いのは、女子の特性の影響もあったと考えられる。特に、「困難の克服」「規範的態度」「情意」が高いことが分かった。

3) 言葉かけと学習意欲の関係

肯定的な言葉かけを多く受けた選手の方が、あまり受けていない選手に比べて、学習意欲が1%水準で有意に高いことが認められた。一方、否定的な言葉かけと学習意欲の関係においては、有意な差は認められなかった。言葉かけの 카테고리、学習意欲の因子ごとに分析を行った結果、「褒める」言葉かけを多く受けた選手の方が、あまり受けていない選手に比べて、「価値」が0.1%水準で有意に高く、「有能感」も5%水準で有意に高いことが認められ

た。同様に、「鼓舞する」と「学習ストラテジー」及び「価値」、「励ます」と「価値」、「助言する」と「学習ストラテジー」、「ねぎらう」と「価値」が5%水準、「切り替える」と「価値」が1%水準、「容認する」と「学習ストラテジー」が0.1%水準で、それぞれの言葉かけを多く受けた選手の方が、あまり受けていない選手に比べて、有意に高いことが認められた。また、「貶す」「罵倒する」「見離す」言葉かけを多く受けた選手の方があまり受けていない選手に比べて、「有能感」がそれぞれ1%水準で有意に低いことが認められた。

4. 結論

本研究の結果、徳島県小学生女子バレーボールクラブの監督の言葉かけは、「価値」「有能感」「学習ストラテジー」に影響を与えていることが明らかとなった。特に、肯定的な言葉かけは、「価値」に良い影響を与え、否定的な言葉かけは、「有能感」に悪い影響を及ぼしていることが分かった。

5. 参考文献

- 1) 名取洋典（2007）指導者のことばがけが少年サッカー競技者の「やる気」に及ぼす影響，教育心理学研究，55，244-245
- 2) 安部久貴・村瀬浩二・落合優・射手矢岬・鈴木直樹（2018）指導者の言葉がけがユース年代の選手のサッカー有能感に与える影響，体育学研究，63，87-102
- 3) 藤田雅文・佐藤安通（2017）高等学校硬式野球部の監督の言葉かけに関する研究—甲子園大会出場チームの監督を対象として—，鳴門教育大学研究紀要，32，506-510
- 4) 矢澤久史（2016）指導者からの言葉かけが高校生スポーツ選手のやる気に及ぼす影響，名古屋短期大学研究紀要，54，51-57
- 5) 岡沢洋訓・北真佐美・諏訪祐一郎（1996）運動有能感の構造とその発達及び性差に関する研究，スポーツ教育学研究，16（2），145-155